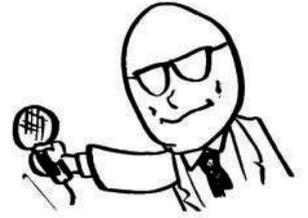


# 〇〇さんの、そこが知りたい!

第14回目の今回は、「Paint Up Sugar」の佐藤亮一君です。

彼とは同級生(心導会)で、保育園の頃からその辺の川や田んぼで遊んでいた仲です。遊びでも何でも、亮一君は昔から「自分の頭で考える」「自分でそれを実現していく」という能力がズバ抜けていたように思います。例えるなら「悪さもできる出木杉君」というところでしょうか。保育園の頃からずっと変わらない、そのギョロっとした目を輝かせながら、インタビューで熱く語ってくれました。...面白かった。

vol.14



僕は昔から他の人と同じ物が  
あまり好きではなかった

スキージャンプをやっていた高校時代の頃も  
他の人がフィッシャーを選ぶなら  
僕はエランを 笑

釣りが趣味だが  
大多数がシマノを選ぶなら  
僕はダイワではなく  
あえてアブガルシア 笑

あまり人気のない物をあえて使いこなし  
自分の物にするのが好きだった

社会人になり初めての車を購入  
SUVに乗りたかった僕は  
当時爆発的に売れていたハリアー  
ではなく、やはりここでも  
兄弟車で不人気のクルーガーに  
とてもいい車で思い入れが多かった  
子供が生まれ家族が4人に増えた時  
なんて事ないファミリーカーに乗り換えた  
しかし  
時間が経ち、ふと後ろを振り返ると  
あの時の好奇心ある自分は何処かに消え去り  
社会の波の中において、ただただ毎日の  
業務をこなし、家路に着くだけの  
変化の少ない自分自身にハッとした

毎日急激に成長していく我が子  
好奇心旺盛で何にでもチャレンジする我が子  
毎日が変化の連続で  
チャレンジ心を見失っている自分が  
情けなくさえ思えた

なんて事ない日常だからこそ  
もっと楽しまなければ  
明日死んでもいい今日を過ごす  
enjoy work  
play job

- 亮一君のFacebookより -

## Paint Up Sugar の事業内容を教えてください。

**亮**：車のオールペイント、塗装、そしてそのオールペイントした車の販売まで手がけて、いわば車のプロデューサーのようなかたちで車両販売まで繋げていきたいと思っています。まあ車だけにこだわらず、小物でも生活用品でも塗れるものはなんでも塗るので、ご相談いただければと思います。

**謙**：う～ん、面白いですね～。



## ペイントはいつから興味あったの？

**亮**：実はボク、野沢温泉出身で、スキージャンプをやってたんですけれど…小学校の時、長野オリンピックで日本ジャンプが全盛期の時に、そこから興味を持ち始めて…その世代で活躍していた、例えば船木選手とか、岡部選手、原田選手とか、あの時の金メダルのメンバーなんだけど、あの選手達って、ヘルメットを自分の色にペイントしたんだよね。

**謙**：あ～やってたねー！覚えてる覚えてる。

**亮**：そう、船木選手だと「飛」っていう漢字とかね。それを見て、やっぱり憧れの選手だったの

で「カッコいいなあ」と思っていたのがきっかけで、「オレも自分でやってみよう！」ってところから始まって。当時、丸見屋さんでTAMIYAの缶スプレーを買い漁って。地域貢献してたね（笑）

**二人**：ハハハハハ！

**（謙**：いや～その時の作品もぜひ見たいね！）



**亮**：オレがほとんど買ってたんじゃないかな（笑）それで自分のヘルメットをペイントしたのがルーツ。で、高校1年の時に、もっと本格的にペイントできるコンプレッサーが欲しかったから、長電バスに乗って飯山のD2まで小遣い叩いて買いに行っ。親にはそれ買うって言えなかったからね（笑）

飯山日赤のバス停でコンプレッサーを持ちながら恭平（野沢の同級生）とバスを待っていたね（笑）

**謙**：いや、なんか覚えてるんだよね。亮一くんが自分のヘルメット塗ってるって記憶あるわ（笑）

**亮**：そう、オレの家の下、山三荘の畑なんだけど、その境目でオレはよくヘルメット塗ってたね（笑）

## ジャンプは高校卒業後も続けたかった？

**謙**：ナショナルジュニアチームも入って、全中も2番だったっけ？ すごい成績良かったじゃん。そのままもっと上を目指して続けたって気持ちはあった？

**亮**：高校2年、大学でもスキーを続けるかここで辞めるかっていう時に…白馬でやっていた国体の事前合宿で結構デカイ怪我をして、そのシーズンをだめにしちゃって。もう一年で（高校3年の）また戻って来れるかっていうとき、日本のジャンプは

長野オリンピック後の長期の低迷期だったんだよね。だからナショナルチームにもなかなかスポンサーがつかなかったし、今でいう北野建設みたいに、選手を採用する企業もあまりなかったんだよ。だから正直、ジャンプを続けていてもどうなんだろう…という不安しなくて。だったら夢よりも現実の方へ行こうかな、オリンピックに出たところっていう、当時高校生の自分の中にずいぶん葛藤があったんだけど。そんな時、塗装（ペイント）が好きだったっていうのもあって、新潟の専門学校に行くことにしてね。その時に三菱自動車の新車を僕ら学生が0から1台作り上げてショーに出展するってのを経験して、それが凄く楽しかったなあという記憶がある。



小3 Jr.Jr の記録会で。左から…書かなくても分かりますね（笑）



ジャンプ時代。全中2位。

**謙：**すげえ、キッカケがいいよね。そういう、幼少期の頃に憧れていたスキー選手達の影響でペイントに興味持っていったというのが、野沢的でもあってね。

**亮：**そう、オレ幼少期の頃の記憶の方がデカイかもしれない。逆に大人になってからの記憶ってあんまりないんだよね（笑）やっぱりあの村で自然に囲まれて自由に遊んでいたっていう記憶がすごい強くて。

**謙：**オレがよく覚えてるのはさあ…保育園の頃かな？ 亮一くんちの近くに凶暴なハスキー犬いたじゃん？あそこにみんなで行って、「釣り針投げて引っ掛けようぜ!」とか言って、針と糸持って行ってやったの凄え覚えてるわ〜。あれ、実際に引っかかったらやばかったけどね（笑）あと、冬にうち（フジヨシ）の前の川でめっちゃめっちゃデカイ黒ゴイとったよね!覚えてる？

**亮：**あ〜覚えてる!（笑）それとか健命寺の周りに泳いでるコイ釣ったりね（笑）

（二人：ハハハハ!）

### 専門学校を卒業して、すぐに UBP だったよね

**亮：**そう、自分の理想ではペイント関係とかショーカーを作りたいという気持ちで専門学校に入学したんだけど、実際に就職を考えたとき、都心部にはショーカーだとかバイクの需要もあるから、塗装の需要も当然高まるんだけど、長野県に帰ってきたいという気持ちが強かったんだよね。でも北国の方だと単車に乗っている人も少ないし、ちょっと変わった車に乗っているという人も少なくて。だから当然そういうショップも少なかったりして。そういう状況の中で、専門学校の時の担任の先生に「地元（長野）に戻ればトヨタのでっかい板金工場もあって、そこに卒業生も何人が行ってるけど、どうだ?」というのを聞いて、トヨタならネームバリューも資本もあるし、まあ食いつぱぐれることも無いだろうと思って。とりあえずそこで数年働いて、自分の技術が伴ってきってから、いつかは自分のやりたいことやりたいなあ、なんて思いながら20歳の時に入社したんだけど。



前職のトヨタグループの時代、表彰旅行でハワイに連れていってもらった。「今の自分の知識や技能、非常に重要な部分をトヨタに学ばせてもらった。」

そう、だから車の工場っていうと整備が基本になってくるかもしれないんだけど、**オレの場合はそっちには全然興味がなくて。本当に塗装に特化して、塗装が好きで車業界に入ってきたみたいな感じだから、結構異質だと思うんだよね**（笑）入社してからも「**オレは塗装だけやりに来たんで。**」っていうぐらいのスタンスでやってきたね（笑）**じゃなきゃ自分の意味が無いと思ったから。**

トヨタで感じたことは、本当に**お客さん目線で、品質第一**であること。ゴミ1つあっちゃいけないとか、本当に細かい傷も気にして仕上げなければいけない、とか。ただ、工場の内側にいると、対面でお客さんと接する機会がほとんどなくて、お客さんの声っていうのは全然聞こえてこない。どれだけ自分がよくやっても「良い声」っていうのは全然フィードバックされずに。クリームみたいな、自分の手直しに対する声が営業マンから上がってきて…「**自分の仕事って本当にお客さんのためになってるのかな？**」って葛藤する日々を悶々と過ごしながらいつの間にか10年が過ぎ…。



「渡部選手のヘルメットは黒ベースで、一見パツと見わからないんだけど、太陽の光が当たった時にキラッと毘沙門天の柄が浮き上がるやつなんだよ。」

ただ、このトヨタの10年は、**凄く自分の基礎的な部分を向上してくれたから感謝しかない。**で、そんな中、子どもが生まれたっていうのが非常に大きいターニングポイントで。**子どもに教育をする中で、自分が楽しんでいないのに…ただやっているだけような業務なのに、子どもにもっと挑戦しろとか、チャレンジしろとかっていうのは、「いや、こんな自分が何言ってるんだろう。」みたいな。「子どもに言うくせに自分やってねーじゃねーか」ということを考えてしまっ**て。

**謙**：それはボクらの佐藤亮一らしくないね～。

**亮**：昔、自分は挑戦とか好きだったのに、とか。なんでオレ、こんなに「らしくないこと」やってるんだろ。だから今度は「**楽しみたい**」という気持ちも強くなってきて。

あと数年前、スキーをやっていた時の後輩である**渡部暁斗くんから「ヘルメット塗ってもらえませんか？」**っていきなりメールが来て、「ああ、もちろん!やらせてくれ。」って話になって、トヨタの時の業務外の時間でやらせてもらってね。**当時の暁斗くんと直接、「ここどうする？」とか一緒に話し合っ**て自分が塗って。それをすごい喜んでくれてさあ。それを被って世界の一線で活躍する姿をテレビで見、「**ああやって良かったな～!**」って。そこで結局原点に戻ってきたんだよね。小学校の頃にTAMIYAの缶スプレーでヘルメットをペイントしていた頃の自分に。



昨年、同級生「まんちゃん」の結婚式で。みんな集まりが良すぎる。

暁斗から直接、「かっこいいね!って海外の選手から声かけられるんですよ。」って言ってもらえたのとかすごい嬉しくて。その時に…人それぞれ喜びってあると思うんだけど…俺はお客さんの声を聞いて、それを実現するために自分の知識とか技能を発揮して、「ありがとう。」って言ってもらえるのって凄いいいなあと。…やっぱりやりがいがいだよな。

謙：ああ、それはめちゃくちゃ嬉しいことだね。

### 休みの日何してる？（オレは知ってるけれど。）

謙：凝り性ですからね～（笑）

亮：昔から、ほんとに釣りが好きで…謙くんともよく釣りに行ったりしたけれど…もう何歳だろうなあ？保育園の時からやってたのかなあ。父ちゃんが連れて行ってくれたのがきっかけなんだけど。北竜湖だったり千曲川だったり。当時木島駅の横にカインズホームがあったんだけど、そこで釣竿買ってもらったのはすげえ覚えてる。あと野沢って近所の川でニジマスとか釣れたりしたじゃん。もう、糸だけで。ビックマウスの下の川とかすげ



え釣れてさ。

謙：そういうの面白えんだよな～。

亮：うん、一番面白いかもしれない。最近は斑尾の希望湖とか結構…。

謙：そうそう、そういえば、また北竜湖でヘラ釣れるようになって知ってた!?

亮：マジで!?一時いなくなったじゃん。え!マジで!?行こうよ!…そこでそのままキャンプしたりさあ。

謙：そう。ビックリしてさあ。去年の秋だったかなあ?おっちゃん2人で缶ビール飲みながらやってさあ。それが結構釣れてたんだよね。やっぱり、ヘラいいわ…と思ったね。

亮：いいね～。…で、その横には自分で塗った車が置いてあってね。

謙：それ最高だね!

亮：これね…オレ、語っていいのかな（笑）

## この仕事で「佐藤亮一」が求めているもの

**亮**：車を買いに来てもらうっていうより…その車がある日常の一コマが、なんかね「特別な日常の1ページ」になってくれたらいいな。っていうのが今回やりたいことなんだよね。今ね、車ってみんな日常で当たり前に通勤やレジャーで使っているんだけど、なんか買い替える時ってやっぱり思い入れがあったり、普通に使っていたものが、そこで「ああ懐かしいなあ。別れるの寂しいなあ。」って、本当に相棒に対する気持ちみたいなものが湧くんだよね。だから、その車がね、ちょっとスーパーから駐車場の車に戻ったときなんかにも、自分の色に染まっていたら、めっちゃ良いなあって。その一台があることによって例えば子どもの送り迎えが楽しい1ページになるっていうか。やっぱり子どもができてその気持ちが大きくなったかなあ。よく言う話だけれど…子どもと過ごす時間てさ、本当に実際は何日分しかないよ、とか。お互い保育園行ったり会社行ったりするとね。だからそうやって子供とコミュニケーションを取れる時間ですごい大切な時間なんだなあっていうことがコロナもあってすごく考えたんだけど、そういう一コマを一緒に作ってくれる愛車があったら、めっちゃいいなあって。なんか夢は大きく、なんだけれど。

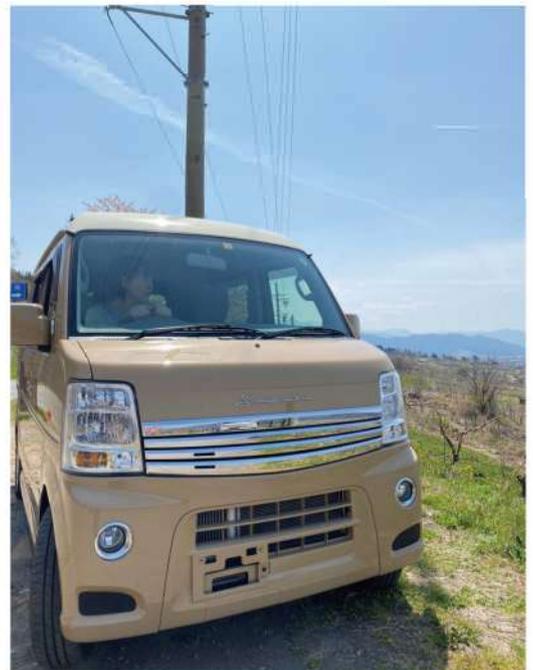
**謙**：いいね。凄え伝わるよ。

## これからの Paint Up Sugar は？

**亮**：やっぱり自分が手がけた車がみんなの特別な日常の1ページになってくれたら嬉しいね。それで、そうやって車を楽しんでくれる仲間、お客さん同士がそこでコミュニティを作って、年に何回か集まってバーベキューしたり、その子ども達同士で地区とか関係なしに仲良くなって、北信州の自然を楽しんでくれたり、そういう姿を見たいと思いますね。

**謙**：実に楽しいインタビューだったわ。ありがとう。

【インタビュー 終】





### 【インタビューを終えて……】



30年来の友のインタビューは、時間の経過を感じさせることなく、むしろ幼少期からの映像を、より鮮明にしてくれたような気がします。同じものを見て、文字どおり同じ釜の飯を食った彼が感じていたこと。お互いに違う道を歩んでいる今、こうしてそれを聞いたことは、ひどく嬉しく、そして不思議な気持ちになります。

亮一君の仕事の先にある風景…。北信州の美しい景色と、お気に入りの愛車のそばで笑うみんなの幸せそうな顔が、僕の心にも色鮮やかにペイントされていました。亮一君ありがとう!楽しかった。いいインタビューだった!



## Paint Up Sugar

電話 / 0269-38-0838

- 営業時間 / 10:00~17:00
- 定休日 / 日・祝 (予約のみ可)
- 中野市草間1044-1
- オリジナルペイント済み車両販売
- 各種塗装、オールペイント
- その他もご相談ください



KEN TIMESをご覧のあなたに、  
プレゼントです!!!



お子さま連れでご来店頂いた方に  
「KENTIMESを見た!」で、  
**お菓子掴み取り**  
通常1回を **3回に!!**

2021年6月末まで



バックナンバー

# ご契約者のインタビュー

河野謙のホームページでご覧いただけます

ご契約者の中で「野沢・飯山をメインに事業を行なっている方」に向けてインタビューをさせてもらっています。お客さま同士ががり合い、「地元がより盛り上がっていったらいいな～」と思っています。



「ぼっぼ動物病院」  
松川 恵さん



「有限会社 丸見屋商店」  
河野 晃久さん



「リフレイン福沢の癒し処」  
福澤 美里さん



「nozowa green field」  
河野 健児さん



「やよい農園」  
滝沢 弥生さん



「and sugar」  
高坂 沙也香さん



「ambis」  
福澤 龍一さん



「翻訳家」  
辛島・ジェニファー・フランセスさん



「POWERDRIVE R117」  
庚 敏久さん



「BODY CARE SALON WISH」  
白石 里香子さん



「タイコア合同会社」  
ロビンソン・ガードナーさん  
奈津子さん



「山本園」  
山本 亮介さん  
愛さん



「野沢出張マッサージ  
サオリセラピー」  
齊藤 沙織さん



「Paint Up Sugar」  
佐藤 亮一さん

